

	課題分析	授業改善策
国語	8 割以上の生徒が、授業を理解している。また、学力調査でも、選択記号による正解を選ぶ力は低くなかった。一方、工夫して文章を作ったり、考察したりする問題の正答率が低かった。	自分の言葉で解答を文章化できる力を育てるために、書く作業をていねいに行う。また、自分の解答をよりよいものにするために、他者から指摘をもらえるよう、対話を取り入れた授業展開を工夫する。
社会	授業アンケートより、約 8 割の生徒が授業内容を「理解できている」と回答している。実際に、知識を問う問題への正答率は低くないが、一方で、史資料を読み取り、根拠を明示して解答する問題の正答率は低い。	授業内で行っている、史資料の読み取りや発問に対して根拠を明示しつつ自分の考えを表現する活動を継続して行う。また、生徒が記述した授業のまとめに対するフィードバックを速やかに行う。
数学	授業アンケートの結果から、8 割以上の生徒が、「授業を理解している」と回答している。知識・技能を問う問題については、意欲的に取り組み正答率も高い。図形や数の証明などは書くことができるが、データからの読み取りなどの正答率が低かった。	授業内では、常にスパイラル学習を心がけながら進めていく。習熟度に応じて、それぞれの課題についてより深く考えていく力を養い、表現する力を伸ばす指導を工夫する。「振り返り」を利用して、フィードバックしていく。
理科	授業アンケートの結果より 80%以上の生徒が「理解できている」と回答している。しかし、定期考査では知識を問う問題の正答率が高いが、科学的な思考を問う問題の正答率は低い。	授業中に科学的に考えさせる場面を増やし、どのような見方・考え方をするのかを丁寧に説明していく。また、生徒の考察に対してルーブリックを用いて評価し、フィードバックをする。
音楽	授業アンケートでは、理解できている生徒は 92.2%あり、苦手な内容は音符や記号、得意な内容は発声や歌であった。授業では、ワークシートを使い、表現の工夫について各自で考え、グループで共有して全体でも共有する。詩の内容や記号をよく見て考えようとする生徒が多いが、他の生徒の情報をあてにする生徒が一定数いるのが課題である。	①自分で考える手立てである、詩の内容や記号のヒントをはっきり提示することで、自分で考えようとする意欲につなげる。 ②合唱コンクールの曲を素敵に仕上げるために、合唱活動中に表現を工夫することについて考える機会を多くし、積極的に参加する雰囲気を作り、自分事として取り組ませる。
美術	授業アンケートでは、「とてもよく理解できている」「理解できている」と回答した生徒が合わせて 90.6%であり、多くの生徒が授業内容を理解している。一方で、9.4%の生徒が「あまり理解できていない」と回答していることから、制作の手順や技法、課題のねらいについて、生徒一人一人の理解度を確認しながら支援していく必要がある。	①題材のねらいや制作の手順、評価のポイントを授業の始めに明確に示し、実演や参考作品、制作途中の作品等を活用して、制作の見通しをもてるようにする。 ②制作中は、生徒一人一人の進捗や理解度を確認し、必要に応じて個別の声掛けや技法の再説明を行う。 ③制作途中に確認や鑑賞の時間を設け、他者の作品の工夫にも触れながら、自分の作品をよりよくするための手掛かりを得られるようにする。
保健体育	①運動に対する苦手意識をもつ生徒が多く、それに伴い技能が高まりづらい現状がある。 ②提出物への意識が低い生徒が多く、授業のフィードバックや思考力・判断力が高まっていない生徒が多くいる。	①スモールステップで基礎的・基本的な知識・技能から丁寧に授業を行い、「できた」と感じられる授業を目指す。 ②授業内でのノート記入を増やすことや、リマインドアナウンスなどを丁寧に行っていく。また、フィードバックを丁寧に行い、提出することのメリットを実感させる。
技術・家庭	①体験的な学習活動に対する興味関心が高く、内容についてもより良いものを目指して取り組もうとする。 ②知識と技能が連動していないことで、「分かる」と「できる」が繋がっていない。 ③知識的な内容の定着に差が見られる。	①粘り強く学ぶための動機や内容理解を促すきっかけをつくるため、体験的な学習や動きのある作業を短時間でも設定していく。 ②資料や作業の進め方の例を提示して目標達成までをイメージさせ、知識が技能につながる支援をする。また、繰り返し声をかけるとともに時間設定を工夫する。 ③振り返り活動において様々な情報を得た上で、知識を活用し、まとめられる様式にする等の工夫をする。 ④振り返りシートでの生徒が記述した内容に対して、丁寧にフィードバックを行う。

外国語（英語）	「話すこと」で日常的な話題について、短い文章を読み、概要を伝えるところに課題があった。基礎的な内容を理解しながらも発展・応用できる力が足りていないことにも課題がある。	教科書を用いて、短文や長文を読んで、大まかな内容を捉える力を高めていく。学んできたことを考えて相手に伝えることができるようにペアワークや ALT とのやり取りを増やしていく。
---------	--	--